

とつと通信

2024年4月19日発行

253号

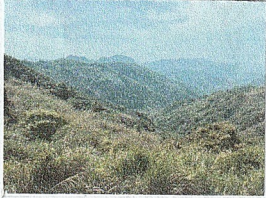
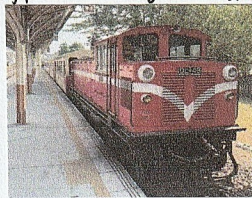
「とつと通信」は
略してとつと。
いつも読んでいただき
ありがとうございます。

こんにちは！平川です。桜の盛りも過ぎ、あっという間に葉桜の季節になりました。いかがお過ごしでしょうか。さて三月下旬、台湾へ行って来ました。帰国したのは、花蓮地震が起きた一週間前でした。花蓮市は、思い入れがある街だけに、大きく傾いたビル、落石があった太魯閣溪谷を見るときも心が痛みます。よって台湾旅行の話は自粛すべきか迷いましたが、発信することが支援につながると思っていますので書きます。では今月もはりきっていきましょう。

阿里山に行ってきました

嘉義市にある阿里山とは、台湾を代表する二千メートルを超える山脈です。日本統治時代の1900年、日本人によって、阿里山には、豊富な森林（樹齢100年の台湾ヒノキ）があることが発見されます。それらの木を伐採し、ふもとへ運ぶために、台湾と日本が協力して、阿里山森林鉄道が建設されます。毎抜二千メートルの高さまで、長さ70キロメートルの完成には8年かかりました。

おかげで嘉義市は林業の街として栄えます。また木材は台湾の家屋建設に大いに役立ち、一部は日本の靖国神社や東大寺大仏殿などにも使われました。話が長くなりましたが、今回の旅の目的は、その阿里山森林鉄道に乗って、阿里山へ行くことです。ご覧下さい、このフィルム。まるで人の顔みたいで可愛いでは。平日なのに満席です。とても人気なので、旅行業者が切符を大量に買ってしまうらしく、日本から事前にネット予約していたので大正解でした。8台目辺りまで2時間半ゆられ、そこからバスに乗り換えます。時速30キロ程でのんびりと登っていきま



につれ、熱帯林、亜熱帯林、温帯林と車窓からの変化も楽しめます。ただし常に横揺れしていますので、乗り物酔いされる方は、酔い止め薬が必要で



す。下車後、有名な駅弁をいただき、乗り換えのバス停へ移動しました。バスは一日3本しか来ないので、絶対に乗り損ねられません。ところが阿里山鉄道は満席だったのに、バス停には人が思ったほど多くない。あれ？みんな乗り合いタクシーで行ったのかな。と思っていたら、次第に不安になって来ました。何度もうネットで確認しますが、バス停はここで間違いありません。でもなんとなくイヤな予感がします。すると案の定、時間になってもバスが来ないのです。なぜ来ないのかと、つたない中国語でおばあちゃんに尋ねたら、壁に貼ってある小さな紙を指さします。「桜が咲く4月10日まで、バス停を200メートル先に移動します」と中国語で書いてありました。なんですよ！乗り損ねました。乗り合いタクシーは、一人では無せてくれず、結局バスを3時間近く待つ羽目に。そしてヤツとの思いで阿里山に着いたのですが、帰りのバスを確認すると、一時間も滞在出来ません。小走りで写真を撮って回り、帰りのバス停に着くと、今度は長蛇の列。今からクネクネした山道を2時間半かけて下ります。私はギリギリ乗り込みたのですが、ところがどこにも席が無いのです。10人ほどが立ったままの状態です。バスが動き出しました。すると立っていた10人が、おもむろにバスの床に座りだしたのです。若い女の子も平気に座ります。誰も文句ひとつ言いません。これには驚きました。そう言えば、逆に台湾の方が日本へ来て、ありえないと驚くことは、ラッシュ時の満員電車だそう。いや、いや、床に座る方がありえんだろ。と思っただけ笑えてきました。文化の違いは興味深いです。2時間半の体座りは辛かったですが、この歳になって、こんな体験ができるなんて幸せです。トラブルやハプニングがあるから旅は面白いですね。次号へつづく。

発行／有限会社アサム 平川雅樹
〒819-1127 福岡県糸島市有田中央 2-14-36
Tel: 092-321-4001 Fax: 092-321-4002

・伊都倫理法人会ブログ : <https://itorinri.com/>